



# 更女しまね

第5号 2018.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



ありがとう さんこうせん 三江線

三江線は、島根県江津市と広島県三次市を結ぶJR西日本の鉄道でした。惜まれながら今年4月1日廃線になりました。江の川に沿って急峻な山間を走る車窓からの景色は、四季の移ろいを心に染み入る美しさで語りかけてくれました。

## 島根県下の更生保護女性会の皆様に



松江保護観察所長

加藤 雅之

島根県更生保護女性連盟の皆様におかれましては、平素から当県の更生保護事業の推進に多大な御尽力を賜っており、厚く御礼申し上げます。また、この度は「更女しまね」第5号が発刊の運びとなりましたこと、誠におめでとうございます。

さて、この度の異動により、本年4月に島根県にまいりました。壮大な自然に恵まれ、美しい町並みに彩られた風光明媚な土地柄を楽しみつつ、総会や各種会議に出席させていただいています。更生保護女性会の皆様が企画される会議に出席させていただき、特に感じますのは、多くの会議で歌や演奏を組み込んだ研修会や清興がふんだんに取り入れられておること、私にはとても新鮮に感じられました。そして、更生保護女性会の皆様が大変楽しく会の活動に参加され、明るい笑顔があふれる皆様の姿には、心癒やされることもございました。

更生保護女性会の皆様は犯罪者や非行少年の立ち直りに資する大変有意義な活動を展開していただいています。彼らに直接関わる機会は限られており、ボランティ

アとして目に見える成果や手応えが感じにくい面があるかも知れません。

刑務所・少年院、更生保護施設等への施設訪問、社会貢献活動・社会参加活動への参加協力を通してわずかに関わることもあると思いますが、それらの活動が対象者の立ち直りにどのような形で貢献しているのか目に見えにくいかも知れません。しかし、対象者から皆様の活動を見たとき、陰日向なく自分達の立ち直りのために様々な活動を展開していただき、何よりこんなに多くの皆様に自らの立ち直りを応援していただいていることの心強さは、何ものにも代えがたいことと思います。

彼らの立ち直りを見守っていただける更生保護女性会の皆様の明るい笑顔から、対象者はもちろんのこと、更生保護に従事する者全体が大きな力をいただいています。

今後とも更生保護女性会の皆様が日々の活動を楽しく活発に展開されるよう期待致します。



## 地域に根ざして

鳥根県更生保護女性連盟  
会長 板倉 靖子

2018年・年明け、大雪、低温が続き、温かい春の陽射しが待たれる3月1日、前松江保護観察所長・山本隆宏様の悲しい知らせに、耳を疑ったのは私ひとりではなかったと思います。あまりにも突然の出来事に言葉もないまま、鐘築章恵顧問、高木禮為子副会長と共に、ご出身地の加古川でのご葬儀に参列し、ご焼香をさせていただきました。

松江に赴任なさって一年。故山本所長様には、いつも明るく、前向きにご指導を頂きました。更女の活動に、笑顔と明るさの大切さを教えていただいた気がいたします。会員の皆様と共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今夏は、記録的な猛暑が続きました。そんな中でも会員の皆様には、更女活動に格別のご協力を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

大雪、低温、豪雨、最強台風、そして地震と日本列島は災害に見舞われました。しかし私たちは、自然現象の前には為す術もありません。西日本豪雨をはじめ各地の災害におきまして、犠牲になられました皆様のご冥福を、衷心よりお祈りいたします。県内におきましても、四月には大田市を震源とする地震が発生しました。また、七月の西日本豪雨では江の川沿いで浸水被害が発生し、被害に遭われた会員の方もあったとお聞きしました。心よりお見舞い申し上げます。

今はただ、被災地の一日も早い復興を願うばかりですが、このような時にあって、私たちにできることは、改めて考えさせられます。更女は、防犯活動や子供たちの健全育成を目指して活動をしています。それには日頃からの地域の方々とのコミュニケーション、他団体との連携が欠かせません。災害時においては、連携、情報の共有がより重要になります。それは、地域に根ざした活動によって成しえるのではないかと思います。会員同士の連携を密にし、地域に「目を配り」「気を配り」そして「地域に根ざす」活動を行うことを、それぞれの地区において今一度、見つめ直す機会かもしれません。



## ごあいさつ

松江保護観察所 企画調整課  
会計係長 安部 寿和

すっかり遅くなってしまいましたが、初めまして。会計係長の安部寿和（あべとしかず）と申します。本年4月1日付けで岡山保護観察所からやってまいりました。その前は広島勤務であり、山陽側での勤務が長く、私のことを山陽人かと思われている方がいらっしゃるかもしれません。ですが、実のところ松江保護観察所には、9年ぶり3度目の勤務となります。それどころか、初任地であり、故郷であり、バリバリの鳥根県人でございます。標準語がペラペラなので、もしかして気が付きませんでしたか？

さて、私は普段、国の会計業務を専門にやっております。採用以来、ほぼずっと会計畑一筋です。（中国管内では山口以外のすべてを経験しています）そして、本年度はこれに加えて、更生保護女性会の担当も仰せつかることとなりました。もちろん、初めての担当です（まさか、私にまであいさつの原稿依頼があるとは思ってもみなかったため、今、とても苦慮しながら書いているところです）。既にお分かりのように、私は人前に立つような仕事を大変苦手としております。また、前任の担当者のようなきめ細かいフォローがどこまでできるものやらと、不安や心配は尽きません。年度当初の県更女常任理事会の席上において、このような心情を率直に吐露したところ、板倉会長から「鳥根の更女さんは優しいから大丈夫ですよ。」と仰っていただきました。今はそのお言葉を信じようと思います。

ここまで県内の更女会の活動を見て、休会したり存続が危ぶまれたりする地区会があることがよく分かりました。他にもいろいろな問題がありましようが、皆様と手を取り合って乗り越えていこうと思っておりますので、どうぞ「優しく」よろしく願いいたします。



## 平成30年度“日本更生保護女性連盟会長表彰”を受賞して

出雲地区 加藤 澄子

6月5日“第55回日本更生保護女性の集い”に参加しました。羽田空港に到着すると板倉会長が待ち受けて下さり、会場



の有楽町朝日ホールへ案内していただきました。全国からの参加者は約550名で、更生保護活動に情熱を注いでこられた諸先輩の熱気に圧倒されるばかりでした。

日本更生保護女性連盟 千葉景子会長のご挨拶ではじまり、法務大臣感謝状、日本更生保護女性連盟会長表彰の贈呈と続きました。今回の講演は、特定非営利活動法人こどもソーシャルワークセンター理事長 幸重忠孝氏の“ひとりぼっちのないまちづくり”～まちのつながりで非行をなくす～でした。内容はとても新鮮で考えさせられるものでした。都市ではなく地方で暮らす私には

到底理解出来ないようなショートアニメを、何例も紹介されました。犯行を重ねていく子供達を守るために、まちの力を借りてはじめて「夕刻を支える場づくり」に全力で取り組んでおられます。子供達の居場所や食事を確保する活動により、非行を重ねていた子供達が少しずつ立ち直る様子を紹介されました。日々報道される悲しいでき事に心が痛みます。幸重先生の言葉を受けとめこれからの更女の活動に活かしていけたらと思いました。

島根更女からの参加者は、板倉会長以下8名でした。今回、日本更生保護女性連盟会長表彰を頂き心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



## 平成30年度 中国地方更生保護女性会員研修に参加して

佐田地区 杉山 悦子

9月21日～22日、岡山市のサン・ビーチOKAYAMAに、中国5県59名の更生保護女性会員が参集し研修会が開催されました。私は新任会長として、しっかり学ぼうと期待をもって参加しました。



稲葉委員長 講演

研修は講演、研究協議（分科会協議）、活動事例発表、研究協議（全体発表）、講評という内容で構成されていました。

講演は、中国地方更生保護委員会委員長 稲葉保様が、更生保護女性会綱領の一節「社会の一員として」や「更生保護の心を広め」等の解釈やその背景について、ユーモアを交えて話してくださいました。改めて、更生保護女性会の基本の考えを学ぶ場となりました。

分科会協議は、第3分科会（テーマ【社会のニーズにあった更生保護女性会の活動を展開するための横のつながり】）に参加しました。参加者20名の地域の実態に即した「地域の人々の理解や協力の求め方」、「似た活動を実施している

地区会同士の情報交換の仕方」、「時代の変化に即した効果的な活動の在り方」等の情報交換は、和やかにまたとても活発に進み、私も領いたり急ぎメモを取ったり沢山の情報を得ました。

特に「他団体の役員を兼務することの多い更女の役員からの情報にはヒントが多い」「つながりを継続するには、活動可能な人が可能な時期に、楽しく無理なく活動することが大事」との発言を深く心に刻みました。

活動事例発表は、“平成29年度地域との連携・協働活動推進地区”の3地区の実践報告がありました。本県の平田地区更女の大谷会長はじめ、それぞれの地域の実態に即した発表は、素晴らしい内容ばかりでした。一つの地域の活動の考え方や実践をじっくり聞くことで、地域に根差した活動の在り方を学ぶことができました。

全体協議の後の、中国地方更生保護委員会委員長 稲葉保様のメインテーマに沿った講評は、改めて更女の大切さを深く考えさせられるものでした。



分科会協議

新任会長として、この研修会で学んだことを地域での活動に生かし、心豊かに生きられる明るい社会を目指して前進したいと思います。

## 平成29年度中央研修に参加して

大仁地区 稲岡 恵子

当研修が昨年10月17日から19日までの3日間、アルカディア市ヶ谷私学会館（東京）を会場に、『地域を編む』をテーマとして北海道から沖縄までの地区



千葉会長、叡本法務省保護局長を囲んで  
=中国ブロックの参加者=

会長100名が集い開催され、県更生保護女性連盟から宮川公子さん（益田地区）と参加しました。

初日の開講式では、日本更生保護女性連盟 千葉会長から「更女の願いを達成するため心一つにして取り組みましょう。」という挨拶でスタート。その後、講話、基調講演、パネルディスカッション、交流会。2日目は、講義、事例発表、ワークショップ。最終日は、ワークショップのまとめ、講評、閉講式、修了証書交付という盛り沢山の日程でした。

さて、この研修で私が印象深かった事は

①今回のテーマ『地域を編む』について

地域には、様々な知恵や力をもっている人が沢山いる。そこで、色々な方と手をつなぎ、絡み合っていけば、更女の活動支援に繋がっていくということ。多くの出会いをつくり、普段からの繋がり大切さを学びました。

②「何故、活動しているのか？」について

誰かのためにとやってやっているけれど、結局は自分の人生が豊かになっていることに気づかされました。

全国どの地区も様々な課題を抱えながら、誰もが明るい社会・未来づくりに向け熱く語り合った3日間は、私にとって生涯忘れることのない大きな「宝」となりました。

これからの活動に少しでも活かしていきたいと思います。

終わりに、この研修の機会を頂いた事から感謝を申しあげ報告と致します。



中央研修を契機に、交流が始まりました！

## 平成29年度 保護司・更生保護女性会員・BBS会員連携強化研修に参加して

宍道地区 野津千洋子

平成30年3月14日、大田市のあすてらすにて松江保護観察所主催の標記研修会が行われました。実は1月の予定でしたが、過去最強クラスの大雪や猛吹雪が予想されたため、急遽3月に延期されたのでした。



本来なら松江保護観察所長 山本隆宏様の挨拶が始まるところでしたが、3月1日に急逝なさいました。

当日は企画調整課長 上谷淳子様挨拶にオリエンテーション、そして講話が行われました。

山本所長様の赴任1年目でのご活躍にはいつも敬服しておりました。あまりにも突然の訃報に接し、言葉も見つからないままの研修会参加となりました。

今回の研修は事前に関係資料が送付され、「グループ協議準備メモ」を作成して研修当日に持参する形で行わ

れました。また、グループは地域ごとに作られ、馴染みのある方たちで構成されていました。これは、テーマが「立ち直りを支える地域のチカラ～更生を支援する地域ネットワーク構築を進めるために更生保護ボランティアとしてできること」であったのに併せてのことだったと思います。

私はこの会で初めてBBS会員の方に出会いました。若くて積極的で、とても好感のもてる方たちでした。是非宍道地区でも一緒に活動してみたいと思いました。

この三者連携の研修会を続けることは、お互いを理解しあうためにとても大切なことだと感じました。そして、多くの方がこの会に参加し、それぞれの会の方と知り合い、協力し合うことが大切と感じました。



H29年 保護司、更女BBS強化研修

## 平成29年度 更生保護女性会 新会員研修会に参加して

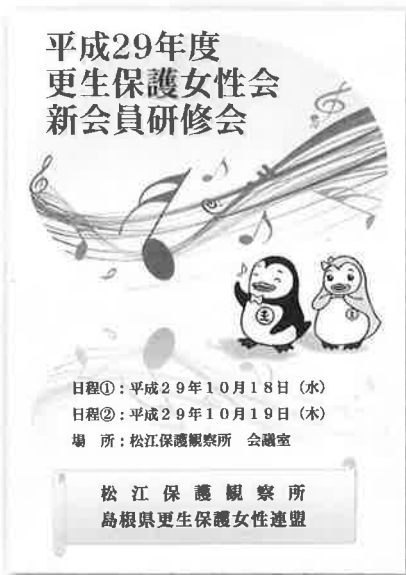
益田地区 佐々木千鶴

昨年10月、更生保護女性会新会員研修を受講しました。不安と期待を抱きながら松江保護観察所の会場に入りましたが、参加させて頂いて良かったと、とても充実した気持ちで帰途についたのを覚えています。

更生保護女性会についての知識もなく地区の活動に顔を出していた私にとって、

松江保護観察所長 山本様、企画調整課長 上谷様、県更生保護女性連盟会長 板倉様の講義はとても新鮮で有意義なものでした。

地域に根ざし更生保護を支える『やさしいこうじょ』  
※役割分担 ②作戦会議 ③幸せ貢献 ④一体感 ⑤



公平な場としての更女会 ⑤「うれしさ」も大切な要素 ②自分も相手も同じ目線の支援関係 ③横の連携 で示された活発な活動、歴史を知ることが出来たこと、3種類の紙芝居での活動を始めとする他地区の活発な活動に刺激を受けたり、講義の後に見せて頂いた「HAND」のDVDに感動致しました。

地区更女の活動として、毎月1日に通学路に立っての挨拶運動をしています。昨年4月より思い立ち、毎日小学生と一緒に通学路を歩いています。今まで気付かなかった危険なものが見えたり、子供達とも親しく会話をすることが出来、私の朝の楽しい日課になり続けています。又、4月からは放課後児童クラブの補助員としてより多くの地域の子供達とふれ合う機会を得ました。

このように今私に出来ることを続け、地域と繋がり、それが更生保護女性会の活動へ活かしていけたらいいなと思っています。



## 「更生保護女性会組織強化研修」 に参加して

島根県更女 会長 板倉 靖子

平成29年12月19日(火)～20日(水)に法務省浦安総合センターを会場に、「更生保護女性会組織強化研修」が開催されました。



この研修は、2019年に日本更生保護女性連盟が結成55周年を迎えるのを機に、その記念事業の一環として実施された「県連盟へのアンケート」を基に行われました。各連盟の実情を交換すると共に、組織及び活動の充実に向けて今後の方向性を探ることを趣旨に、「県連盟の実情と今後に向けて」をテーマとして討論致しました。

研修の冒頭、日本更生保護女性連盟 千葉景子会長、法務省保護局更生保護振興課長 古田康輔氏の挨拶に続いて、千葉会長の講話「更生保護女性会の今後に向けて」を拝聴しました。

研修では事前に実施された、1.財政、2.役員・事務局、3.地域の他団体との関係、4.研修、5.広報の5項目のア

ンケート結果のまとめ報告の後、グループ討議で行われました。

グループ討議では、問題を解決したり結論を出したりすることを目的とせず、テーマに沿って、自由に意見を出し合い、多くの考えを集め、新たな気づきを得ることを目標とし、そしてそれぞれの県連の運営の参考にしましょう、というものでした。

この度の研修の参加は各県連会長にとの事でしたので、10月1日からその職に就いたばかりの私も、一員として参加することになりました。グループ討議は、アンケートのテーマ毎にメンバーを入れ替えて行われ、多くの意見をお聞きすることが出来ました。どのテーマにお



いても、各県の実情についてとても活発に発言があり、新米の私はたくさんの刺激を受けることになりました。

研修を終えた飛行機の中、これからの島根県更女に思いを馳せ、更女の認知度を高めるためには？わたしたちの活動を次代へ伝えていくには？などと考えながら、年の瀬の家路につきました。

## 平成29年度 「地域との連携・協働活動推進地区」の取り組み

平田地区更生保護女性会 会長 大谷 民子

平成29年度「地域との連携・協働活動推進地区」の指定を受け、3つの重点目標を掲げて取り組みました。

- 1 青少年健全育成・子育て支援（関係機関との連携強化）
- 2 更生保護女性会活動への理解
- 3 更生保護施設への支援

推進体制としては、中心となる6名の「推進チーム」を結成しました。役員会に諮りながら進めました。まず、地区全体の活動、支部の活動の一つ一つの課題や効果を全会員で見つめ直し、関係団体と連携することでこれまで以上の効果が得られると思われるものは更女から呼びかけをしよう、との共通認識のもとに進めました。

そのため、今まで保護司会と一緒に実施していた活動を、民生児童委員協議会、社会福祉協議会、自治協会等にも呼びかけて共催で活動したり、呼びかけられて参加連携したりし、活動内容もより充実したものになりました。これによって、関係団体との連携体制が強まり、更女活動も一層地域に認識され、今後の活動も活気を帯びたものになりました。

平田地域には更生施設がなく、青少年育成、子育て支援活動が主体となっています。その中で一番力を入れたものは、「入学・卒業お祝い会」でした。

### 入学・卒業お祝い会

この活動は、継続していること、全会員が携わっていること、他団体と連携した活動であること、また、地域内の全小学校卒業生と教職員へ手作りの胸花を贈っていること等、時間と労力を惜しまずに続けている活動です。

将来を担う子どもたちが、地域の温もりを少しでも感じて健やかに成長してほしいとの思いから、平成14年に平田支部更女が実施し、その後2・3の支部が実施、やがて全体に広がりました。最初は入学や卒業は、地域全体のお祝い事として、社会福祉協議会、保護司会に呼びかけて一緒に開催していました。昨年度からは民生児童委員協議会、自治協会等にも連携を呼びかけ活動しています。

お祝い会は更女が主体となって企画し、当日はそれぞれの団体が役割分担して賑やかにお祝いをしています。

卒業式に付ける胸花は、折り紙講師をしている会員が、障子紙をピンクの濃淡に染め、乾かしてアイロンをかけ、裁断までして準備をしてくれました。折り方は役員がまず習得し、全会員で作成しました。

この活動は、各学校から大変喜んでいただき、卒業生から「地域の温かさを感じ、これを忘れないで頑張ります。」という言葉があり、会員たちも報われた思いでうれしく感じました。手間をかけましたが、会員同士が共通の認識のもとに目的に向かって取り組んだことは、活動への意識や関心が高まり、意欲の向上につながったと思います。この活動は、今後も絶やすことなく続けて行きたいと思っています。

平田地区更女は、各コミュニティセンターに活動拠点を置いていますので、コミセンの子育て支援部や文化部、各役員になって活躍している会員が多く、また、女性の保護司や民生児童委員はほとんど更女会員であり、常時横の繋がりがありますので、連携活動も快く参加していただいています。

今回、この指定を受けることにより、青少年育成団体との繋がりがさらに強くなり、更女活動に対して地域のみな様の理解が深まり大変良かったと思います。

これを契機に、今後一層他団体との連携を深めながら効果のある活動を推進したいと思っています。

卒業生に贈る  
胸花づくり



卒業生を  
祝う会



入学・卒業  
お祝い会



# 第57回愛の図書贈呈式を行いました。

## 県更女「愛の図書」贈呈先

- 松江 刑務所
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 美保 学園
- 松江少年鑑別所
- わかたけ学園
- 中央児童相談所
- 出雲児童相談所
- 浜田児童相談所
- 益田児童相談所
- 島根更生保護会
- 島根県女性相談センター



島根県更生保護女性連盟では、『読書が人の心を育て青少年の育成や更生支援に役立つ』ことを願い、県会員による愛の図書募金活動を行ってきました。

平成29年12月8日、松江保護観察所を会場に「第57回愛の図書贈呈式」を行いました。

11の施設に図書券を贈呈後、美保学園・中央児童相談所・わかたけ学園様に、施設の概要や愛の図書活用状況についてお話をいただきました。

わかたけ学園伊藤進園長様は、次のようにお話をしてくださいました。

更生保護女性会の皆様には、大変お世話になっています。学園の行事の際、大きなご声援と温かい“しじみ汁”をいただきました。児童の喜ぶ顔が今も浮かびます。

さて、本学園は、現在児童生徒数、男子20名、女子5名、年齢層も小4から高3まで幅広く、松江から益田まで県下全域から集まり、寮生活をしながら園内の大野原分校に通学しています。スポーツも盛んで、今年マラソン大会優勝・野球は平成26年中国

大会優勝、全国大会に駒を進めたことも。2020年は、本県で全国大会が開催されます。ぜひ更生保護女性会の皆様のご支援を頂けたらと思っています。

児童や生徒にとって読書の習慣や本が読める環境は、とても大事だと思います。皆様から頂いた図書券で買った本は生活の様々な場所で利用されています。小説や図鑑は分校での朗読に、教材や参考書は寮での自学自習に、また寮の本棚には漫画が並べられ大切に読まれています。

今後とも本学園に、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。





## “こころ一つに…” しまねの更女

### 「芋掘り」を通して

安来地区 山崎 光恵

安来地区では、年 1 回の総会に合わせた設置研修の他は、各地区で健全育成に関わる活動をしています。子どもたちの見守りや、挨拶運動などその地域に根差した活動です。



私の飯南地区では、他の団体と連携して小学校の米作り体験を手伝っています。

また、保育園の園児にジャガイモ掘りや、サツマイモ掘りを体験させています。これは元々私の夫が始めたことですが、初めは仕方なしに手伝っていました。

ところが、更生保護に関わるようになってから、これが健全育成であり、食育であると気がつきました。

私の地域では会員数が少ないので、近所の人などをボランティアで頼んでいましたが、研修を受けた他地区の更生保護会員も誘い、もっと活動に広がりを持つ必要性を感じるようになり、さっそく実行しました。

今年は 6 月 25 日に、ジャガイモ掘りをし、辺り一面

に子どもたちの歓声が響きました。すぐにあきて虫取りをする子どもや、変形した芋を動物にたとえてはしゃぐ子など、大騒ぎでした。でも一様に楽しかったと生き生きとした表情で話してくれました。



昼食は、地区の公会堂で掘りたてのジャガイモでカレーライスを作りみんなで食べました。何杯もお代わりしたことに驚きました。

活動し始めの子どもたちは成人しましたが、今後も保護司さんをはじめ各団体と連携し、地域の健全育成に力を入れたいと思います。



### 演劇祭に招待して

八雲地区 堀江 久世

“演劇は、こころの食べ物”と題して松江市八雲町では、松江森の演劇祭（松江市主催、旧八雲国際演劇祭）が 3 年に 1 回開催され



ます。八雲更女では、この演劇祭の楽しさ、うつくしさ、レストランでの食事の雰囲気など様々な体験をしてほしいと、近隣の養護施設の子供たちを招待しています。招待をはじめてから昨年で 4 回目となりました。

この演劇祭に招待するにあたり、施設側と更女との打ち合わせを何度も行います。報道にかかわること、食物アレルギーのこと、保護者の了解まで綿密な計画を立て観劇の日を迎えます。

海外の大勢の劇団員と国内の劇団員との交流の場は

食事レストランであり楽しい食事にとりたいと、更女スタッフも一緒に食べます。

観劇も子供たち・会員も楽しめる作品を選び、身と心の栄養になってほしいと願い、事業の一つとしています。

会員は、小さな子供に付き添い、大きい子供たちの話し相手になったりもして、この日はお母さんになって頑張っています。

子供たちが本当に楽しんで帰ってくれる姿をみると、私たちがほのほのとした気持ちになり、子供たちから元気もらっています。

私たちは、だれもが平等に心豊かに生きられるよう、これからも招待を続けて行きたいと思っています。



## 更生保護女性会総会を開催

海士地区 上田 正子

海士町更生保護女性会は、平成11年6月27日設立総会を開いてから今年で20回目の総会を開催しました。スタート時点は17名の会員でしたが、現在は50名の会員を擁し14地区すべてに会員を配置しています。



メッセージの伝達

今回の総会は、新しく就任された大江町長、澤田保護司をお迎えし、会員35名の出席のもと開会行事を厳粛にとり行いました。その後7月1日からの社明運動に先がけて、内閣総理大臣からのメッセージを保護司から町長に伝達していただきました。

協議内容は、活動報告・決算の承認・活動計画・予算の決定がなされ、次いで最も力を入れて取り組む社会を明るくする運動の推進について熱心に協議が行われました。社明運動では全会員が全戸訪問して、住民の心温まる善意の気持ちを受けとめて募金集めを実施

すること、7月中に終了すること等を確認しました。募金活動に先だち、町の協力を得て募金の趣意書を回覧で回し、IP告知で2回放送を行っていただきました。高齢化、人口減少の厳しい社会情勢の中で、例年集まる60万円の募金額は困難かとは思っているものの、会員の皆さん心一つに活動を展開することを誓い合いました。



総会での町長祝辞

この他、子供の見守り活動への協力要請が主任児童委員から発言があり、児童への声かけ運動を広げること賛同しました。

最後に、更生保護の心を歌った“愛をみんなで!!”の歌を斉唱して総会を閉じました。



総会の様子

## 『聖煌寮』訪問研修会に参加して

江津地区 三浦ミナ子

6月26日、バスは一路浜田市三隅町にある児童養護施設 聖煌寮へ。閑静な場所に落ち着いた色合いの建物。職員の方々に迎えられ、寮長さんのお話をお伺いし、寮内を案内していただきました。



この施設は、昭和28年開設、昭和40年寮舎新築、平成元年現地へ全面移転新築。幼児から高校生まで入所でき、5グループに分かれて共同生活。家庭を再現したいとの願いから、居室のほかにも憩える居間もあるほどスペースも広くとってあり、出入り口、トイレもグループ毎に設置、物干し場、持ち物の収納場所も指定してあり、整理整頓の習慣もおのずと身につくようにと配慮されていました。清掃が行き届いておりました。

年齢差があり、育ち盛りで、性格ももちろん様々で、

大変な業務であろうと、想像するに余りあるものでした。それぞれに専門職の方々が待機され、兄・姉のように、あるいは保護者・指導者として適切な接し方で子どもさんの心に寄り添っておられる様子を伺い知ることができました。中にはこの寮から就職や結婚をした人もあり、親代わりとして喜びも悲しみも共有されていることも知りました。

この施設があるおかげで子どもさんは、自分の人生が豊かになり、悲喜こもごも体験しながら成長され、強く歩み続けられることでしょう。かけがえのない故郷となることを念じつつ聖煌寮を後にしました。

次いで、歴史的にも名高い、同町にある龍雲寺へ。御住職に歓迎され、特別に寺内すべてを拝観。法話をお聴きし、昔ながらの工夫された精進料理に舌鼓をうち、心身共に清らかにしていただきました。これからの更女活動に良き指針となる研修であったと深く感謝しています。



## 地域ぐるみで心ひとつに

鹿足地区 中村 俊子

### 連携で盛り上がった盆踊り大会

8月11日に「にちはら鮎まつり・花火大会」の協賛行事として、日原公民館町づくり委員会主催による伝統行事「納涼飾り」を日原小学校横の堤防道で行ないました。当日は早朝により竹切りをし、飾り付けには17団体100人以上が参加しました。私たち更女の会員も、皆さんと一緒にお願いごとを書いた短冊や、色とりどりの七夕飾りを取り付けました。25本の笹飾りが出来上がり、高津川沿いを彩り、期間中行き交う人を楽しませてくれました。



8月14日に日原盆踊り大会を日小体育館で行ないました。盆踊り保存会の皆さんは揃いの浴衣で、中央に「太鼓」「三味線」「口説き歌手」を置き、昔から伝わる日原盆踊りを行ないました。初心者でも踊れる「日原音頭」「炭坑節」を子どもと大人が大きな輪になって笑顔で踊りました。更女の私たちも童心にかえり、輪の中に入って踊りました。

ふるさと教育事業の一環で小学生による「駄菓子屋さん」、中学生有志による「わたがし」「かき氷」「ポップコーン」の出店もありました。ジャンケン大会も主となって中学生が行ない、子どもも大人も多いに盛り上がり楽しい一時を過ごしました。

こうした地域連携活動こそが、犯罪のない明るい社会づくりと健全育成につながるのではないかと思います。

### たゆまぬ研修

鹿足地区更生保護女性会は、青少年の人間形成について会員の研修大会を昭和36年より毎年開催しております。「更生保護女性会に期待するもの」というテーマで下記のような研修会を開催いたしました（抜粋）。

平成20年度

演題「地球で育む子育て環境」

島根大学教育学部教授 高岡信也氏

平成22年度

演題「子どもたちの居場所づくりに関わって

～元総長のふれ愛義塾～

NPO法人 田川ふれ愛義塾理事長 工藤良氏

平成23年度

演題「スカイツリーの秘密」

東京芸大名誉教授 澄川喜一氏

平成26年度

演題「子どもたちとの出会いをとおして」

スクールカウンセラー 稲田彰氏

平成27年度

演題「響き合う音と心」

伶人 柳井勇氏

平成28年度

演題「心」ひらく「想」つなぐコミュニケーション

(株)船橋屋執行役員企画本部長 佐藤恭子氏

平成29年度

演題「人生100年時代に備えるわたしの暮らし方」

しまね女性センター事業課長 福間祐子氏



平成23年 東京芸大名誉教授「澄川喜一先生」と鹿足更女の皆様

# 平成30年度 受賞おめでとうございます

平成30年6月7日に有楽町朝日ホールで行われた  
 第55回“日本更生保護女性の集い”では、  
 法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表彰状が贈呈されました。  
 また、平成30年11月15日に開催された島根県；更生保護事業関係者顕彰式典では、  
 中国地方更生保護委員長感謝状・中国地方更生保護女性連盟会長表彰・  
 松江保護観察所長感謝状の授与が行われました。受賞されました皆様、おめでとうございます。

## 平成30年度被表彰者

**賞状**

日本更生保護  
女性連盟会長表彰

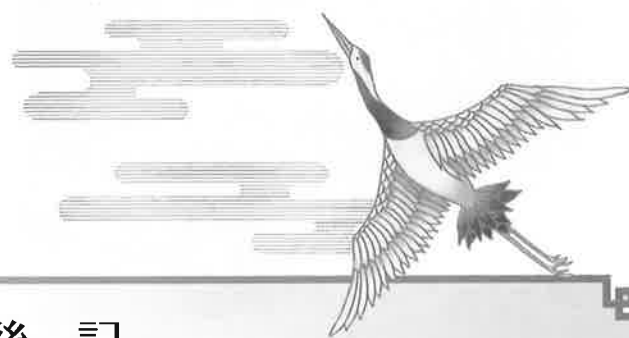
織奥 靖子 (松江地区)  
 藤原 映子 (平田地区)  
 加藤 澄子 (出雲地区)  
 山根 満江 (邑智地区)  
 奥田 文子 (益田地区)

**賞状**

法務大臣感謝状

柳樂 利子 (多伎地区)  
 上田 正子 (海士地区)

- 中国地方更生保護委員会委員長感謝状 23名
- 中国地方更生保護女性連盟会長表彰 28名
- 松江保護観察所長感謝状 142名



## 編集後記

松江保護観察所前所長 山本様の突然の訃報に、耳を疑い言葉を失いました。ありし日の山本所長の晴れやかな笑顔とエネルギッシュなお姿は、会員皆忘れることができません。

七月豪雨では報道こそ少なかったものの、邑智地区と江津地区にはかなりの被害がありました。県連盟からのお見舞いに対して、当地区より更女会員の皆様にお礼のことばがありました。誌面を借りてご報告を致します。

あまりにも身も心も乱されることの多い昨今ではありますが、人生経験を活かし、平常心を保ちながら地域貢献していくのが私たちの使命と思うこの頃です。(佳)

編集委員長 江角 佳子  
 編集委員 板倉 靖子 野津イマ子 樋野 淑美  
 杉山 悦子 山脇 里美 高木禮為子  
 題 字 鐘築 章恵

